避難のカスケード（滝）③自分の避難行動は知らない誰かを救っている

（3月9日　NHK NEWS WEB）

予期せぬ巨大災害が迫っているとき、自分の命を守るための行動を起こせますか？

２０１１年３月11日。高さ10メートルを超える巨大津波で1万８０００人を超える人が犠牲になりました。

今回の取材の中で、両親と祖母の3人を亡くした女性が強い後悔の言葉を語ってくれました。**文房具店を兼ねた自宅で、散乱した商品などの片づけに掛かりきりになっていた家族と一緒にとどまっていたことで津波から逃げ遅れました。**

「犠牲にならずにすんだ命だった。助けてあげることができなくてごめん。同じような思いを誰にもしてほしくない」

あの日、**地震発生から津波到達まで30分から1時間ほどの時間がありました。どうすれば避難することができるのか。何が生死をわけたのか。**

今、津波避難の専門家が注目しているのが、〝避難のカスケード〟です。

※カスケード：連なった小さな滝、連鎖的に物事が生じる様子

【災害に絶対安全はない…様々な選択肢で避難訓練を】

東日本大震災の教訓から様々な選択肢を見据えた訓練を続ける地域もあります。高知県の黒潮町です。

今回取材したのは、地震発生から20分で、津波（高さ30センチ）がおしよせ、10メートル浸水すると想定される入野地区です。

大方児童館を利用する子どもたちが続けているのが避難場所を変えた訓練。

この日は、近くの津波避難タワー、高台にある町役場、高台の小学校といった避難先をわけた訓練です。

さまざまな選択肢で訓練を積んだ子どもたちが自信をもって「率先避難者」となれば、危機に気付かない人々に避難行動を促すことができる▶

それぞれ、避難にどのくらい時間がかかるか、避難の課題は何かをみつけます。

訓練を終えた子どもたちからでた意見は、

「津波避難タワーは、**近くてすぐにいけるけど、それ以上の高さまでは避難できない**」

「道の途中にブロック塀があって、通れない場合に備えて、ほかのルートも知っておかないといけない」

などの意見。

このなかで、大方児童館のスタッフ、北山直記さんが大切なことだと子どもたちに教えたことがあります。

高台の小学校に向かった子どもたちのチームが**「小学校からなら、さらに遠く高くなっている場所までいくことができる」**と語ったことです。

東日本大震災では、安全と思われた場所が津波に襲われ、犠牲がでました。

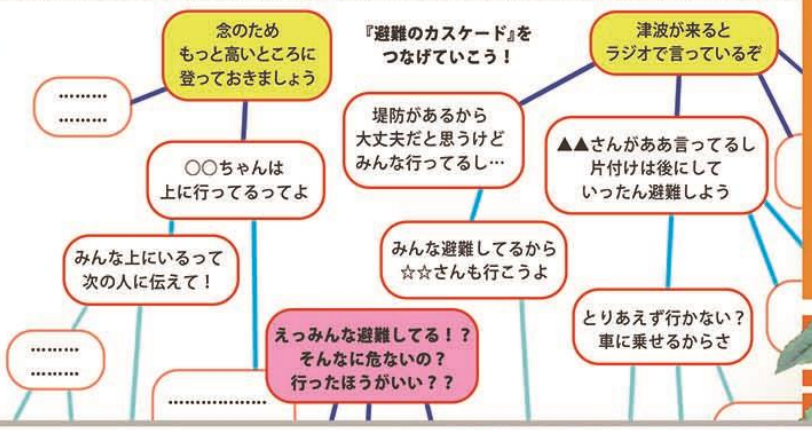
北山さんは「災害ではどんなことがおこるかわからない。一つの答えではなく、たくさんの避難ルートや避難先があることを訓練をしながら知って、命を守ってほしい」と子どもたちに語りました。

【自分の避難行動は知らない誰かを救っている】

避難行動を研究する京都大学の矢守克也教授は、いざというとき私たちにできることを教えてくれました。

「自分が避難するという行動をとることが、知らないだれかの命を救うことにつながる。逆に、とどまっていることが、ほかの人に影響するということを知っていてほしい。津波に限らず、**災害の時、みずからが動けるかどうか、それが周囲の命を守るカギにもなる**」（了）

（一部要約及び改行は文責による）



資料：NHK NEWS WEB、NHKスペシャル『津波避難』

we support ↓ RQ 災害教育センター

MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう！大作戦しんぶん」改め

復興支援かわらばん『すけさきた』しんぶん

「すけさきた」とは宮城県登米市あたりの言葉で「ボランティアに来たよ」という意味である

JUNE 11 2021

文責：井上文子（西表島エコツーリズム協会　東北復興支援担当）